

特集

他専門職のワザがわかる

在宅リハの可能性

加齢や疾病によって、生活機能に障害を来す在宅療養者が増加中です。

これに対して在宅では、個々の生活環境に合わせた「リハビリテーション」が求められます。その目的は、必ずしも「機能回復」ではありません。

高齢だから、治らないから、機能が回復しないから、とあきらめるのではなく、「予防」や「維持」、「緩和」を含めた

“その人らしい生活”を支えるリハが求められています。

そこで今、期待されているのが「訪問リハ」。

その専門職たちは、在宅療養者の何をどうアセスメントし、いかにリハを行なっているのか。

その人の“どこ”を見れば、“何が”わかるのか。

その視点を日々のケアに活かすとともに、チーム連携の可能性も探ります。訪問リハの草分けの“ワザ”に学び、在宅リハの可能性を拡げる特集です。